

平成28年5月6日

中国地区各県小学校長会
会 員 様

第63回中国地区小学校長教育研究大会広島大会
第52回広島県連合小学校長会教育研究大会広島大会
大会会長 尾 形 慎 治
(広島県連合小学校長会長)

第 6 3 回 中 国 地 区 小 学 校 長 教 育 研 究 大 会 広 島 大 会
第 5 2 回 広 島 県 連 合 小 学 校 長 会 教 育 研 究 大 会 広 島 大 会
— 大 会 案 内 —

春暖の候、会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、標記の大会を、下記のとおり開催いたします。

新たな時代の要請に応える教育の推進のため、全国連合小学校長会の大会主題の理念のもと、副主題を「夢や志をもってともに未来を切り拓く人間力の基礎を育む学校経営」とし、新たな時代に向けた小学校教育のあり方について究明することにより、本大会の目的を達成していきたいと考えます。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

記

- 1 主 催 中国地区小学校長会 広島県連合小学校長会
- 2 後 援 広島県 広島県教育委員会 広島市 広島市教育委員会 全国連合小学校長会
(申請中)
- 3 会 期 平成28年11月17日(木)～18日(金)
- 4 会 場 JMSアステールプラザ(全体会・分科会2会場)
〒730-0812 広島市中区加古町4-17
TEL: 082-244-8000
広島市文化交流会館(分科会3会場)
〒730-0812 広島市中区加古町3-3
TEL: 082-243-8495
広島国際会議場(分科会5会場)
〒730-0811 広島市中区中島町1-5(平和記念公園内)
TEL: 082-242-7777

5 大会主題

新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～夢や志をもってともに未来を切り拓く人間力の基礎を育む学校経営～

- 6 記念講演 講師 茶道 上田宗箇流家元 上 田 宗 岡(うへだ そうけい)氏
演題 「人間は無限に成長する—日本文化から見えてくるもの—」
- 7 参加費 6,000円

8 日 程

11月17日(木)	9:00 ~ 10:00	中国地区理事会 分科会打合せ(提案者・助言者・司会者・運営委員等)
	10:10 ~ 10:50	受付
	11:00 ~ 12:00	開会式・全体会
	12:00 ~ 13:15	昼食・休憩・移動
	13:15 ~ 16:45	分科会(提案2…各20分間, 協議, 助言)
11月18日(金)	9:00 ~ 9:20	受付
	9:20 ~ 9:50	全体会・休憩
	10:00 ~ 11:30	記念講演
	11:40 ~ 12:00	閉会式

中国地区理事会 11月17日(木) 9:00~ JMSアステールプラザ7F研修室
分科会打合せ 11月17日(木) 9:00~ JMSアステールプラザ4F大会議室

9 分科会別参加割当て

研究領域		分科会		岡山	鳥取	島根	山口	広島	合計
Ⅰ	学校経営	1	経営ビジョン	☆ 1 3	3	6	9	☆ 4 8	7 9
		2	組織・運営	1 1	☆ 6	6	8	☆ 4 8	7 9
		3	評価・改善						
Ⅱ	教育課程	4	知性・創造性	1 1	☆ 6	6	8	☆ 4 7	7 8
		6	健やかな体						
		5	豊かな人間性	1 1	4	6	☆ 9	☆ 4 8	7 8
Ⅲ	指導・育成	7	研究・研修	☆ 1 3	3	6	8	☆ 4 8	7 8
		8	リーダー育成	1 1	4	☆ 6	9	☆ 4 8	7 8
Ⅳ	危機管理	9	学校安全	1 1	3	☆ 6	1 0	☆ 4 8	7 8
		10	危機対応	1 1	3	6	☆ 1 0	☆ 4 8	7 8
Ⅴ	教育課題	11	社会形成能力	☆ 1 4	3	6	8	☆ 4 7	7 8
		12	自立と共生	1 1	4	6	☆ 1 0	☆ 4 7	7 8
		13	連携・接続						
合 計				1 1 7	3 9	6 0	8 9	4 7 7	7 8 2

☆ 提案

10 大会研究主題・副主題及び趣旨

研究主題：「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

副主題：～夢や志をもってともに未来を切り拓く人間力の基礎を育む学校経営～

【趣 旨】

全国連合小学校長会は、これまでの研究と実践の成果を踏まえながら、激しい変化の予想されるこれからの時代の要請に応える小学校教育の推進のため、平成25年度より大会主題を改め、その実現を目指し取り組んでいる。

近年、グローバル化、知識基盤社会化、少子高齢化等が一層進み、先を見通すことが極めて困難な時代を迎えている。こうした中であって、学校教育の責務として、地域社会と一体となり、新たな時代を主体的・積極的に切り拓いていく日本人を育てることが求められている。

これからの小学校教育では、変化の激しく課題解決の困難な社会を生き抜いていくため、絶えず知の更新を図り、様々な変化にも対応できる柔軟な思考や知恵と、課題解決に向けた新たな知を生み出す資質や能力を養う必要がある。また、多様な価値観や個性と出会う中で、それらを互いに尊重し、つながりや絆を深めるとともに、伝統や文化に立脚し、他者と協働しながらよりよい社会を築こうとする豊かな夢や高い志をもった子供を育成しなければならない。

我々校長は、こうした時代と社会の要請に鑑みて、これからの教育の在り方について先進的な知見を自ら求めるとともに、強力なリーダーシップを発揮する必要がある。以て、子供たちに夢や志をもち、これらを具現化・具体化する力を育むことのできる教員を育成する一方で、「生きる力」を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の3つの調和のとれた成長を実現する教育課程を編成・実施・評価・改善しなければならない。また、保護者や地域社会等との連携を通して、子供たちの健全育成や安全・安心な教育環境づくりを推進し、学校の枠を超えた教育活動にも積極的に取り組むことが求められている。

そのため、具体的には、次の視点を掲げた。

- (1) 「知・徳・体」のバランスの取れた基礎・基本の確実な定着を図る。
 - ・ 基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決することができる「確かな学力」を育成する。
 - ・ 自らを律し、他人を思いやり、自然を愛し、伝統文化や社会規範を尊重し、郷土や国を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与しようとする「豊かな心」を育成する。
 - ・ 健康、安全への自己管理能力を高め、主体的に自らの健康や体力の増進を図ろうとする実践的態度を通して「健やかな体」を育成する。
- (2) 学校・教職員への信頼の確立を図る。
 - ・ 教育に携わる者としての確かな力量と総合的な人間力を高めるための研修の充実を図る。
 - ・ 積極的に情報発信をしながら、地域と一体となって子供を守り、育てる環境をつくる。

以上のことを踏まえ、子供たちが夢や志をもって、未来を積極的に切り拓き、自立した人間として力強く生きていくための人間力の基礎を育む教育の在り方と、特色ある教育活動を展開する校長の役割を究明しようとするものである。

【分科会】

- | | | | |
|------------|-----------|-------------|------------|
| (1) 経営ビジョン | (2) 組織・運営 | (3) 評価・改善 | (4) 知性・創造性 |
| (5) 豊かな人間性 | (6) 健やかな体 | (7) 研究・研修 | (8) リーダー育成 |
| (9) 学校安全 | (10) 危機対応 | (11) 社会形成能力 | (12) 自立と共生 |
| (13) 連携・接続 | | | |

分科会（領域・研究課題・趣旨）

【研究領域 I 学校経営】

第1分科会 経営ビジョン

『研究課題』 明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進

『趣 旨』

社会の様々なシステムが高度化し、社会環境の変化が急速に進み、学校教育に対する保護者や地域社会のニーズも大きく変化し、多様化してきている。

こうした時代には、学校教育に対し、心豊かにたくましく生きる人間力の向上を目指して、学習・生活の基盤の形成と確実な定着が求められている。そのため、活用力や汎用性の高い確かな学力の育成や、変化し続ける社会に対応するための自主性、自律性、適応性の育成を重視した教育を推進していく必要がある。加えて、校長の力強いリーダーシップのもと、教職員の知恵と力を結集するとともに、保護者や地域とも課題を共有し、解決を図っていかなければならない。

そこで、校長は、時代の潮流を的確に見取り、子供たちの未来を見据えた明確な学校経営ビジョンのもと、創意と活力に満ちた学校経営を推進することが重要である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第2分科会 組織・運営

『研究課題』 学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営

『趣 旨』

今日、あらゆる分野で知識基盤社会化やグローバル化が著しく進展する中、学校教育を取り巻く社会情勢はますます複雑・多様化してきている。

こうした社会からの要請に基づく様々な教育課題に対応するとともに、学校経営を安定化するには、校長が的確な先見性と強力なリーダーシップを発揮し、全ての教職員に対し、それぞれが学校経営への参画意識を高め、協働させることが重要である。

そのため、校長は、明確に学校経営ビジョンを示し、教職員が、そのねらいや実現に向けた具体策を理解し、目標達成に向けて組織として機能するように導き、変革することが必要である。また、組織として目標達成までの道筋を明らかにした教育活動を推進する中、教職員一人一人を組織の中でどのように育て、どう動かせばよいかなどに配意しながら、教職員にとってよき理解者となり、一人一人の可能性を最大限に伸ばすことのできる組織をつくらなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりや運営の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第3分科会 評価・改善

『研究課題』 学校教育の充実を図る評価・改善の推進

『趣 旨』

校長は、変化を続ける社会の変化と教育課題を踏まえ、教職員に経営方針を明確にして教育活動を展開させ、絶えずその評価と改善を進めていかなければならない。

知識基盤社会においては、習得した知識・技能を活用して新たな課題を解決する力や創造性を育むとともに、それらを将来に生かして、社会問題の解決や国家・社会の発展に役立てていこうとする力や態度を育成するため、「学びの変革」を可能とする教育が求められている。こうした中、学校は、「生きる力」の育成を一層重視し、次代を担う子供たちが変化や課題に対する力や自立する力を身に付け、人間性豊かな社会の形成に積極的に参画・参加し、たくましく成長していくように、新たな知を拓く力を身に付けさせる教育の推進に努めていく必要がある。そのため、校長は、学校改善に向けた使命感と責務を自覚し、保護者や地域との連携を通して信頼関係を確立するとともに、学校経営の改革を積極的に推進しなければならない。

さらに、学校評価においては、自己評価とともに学校関係者評価が実施され、第三者評価の規定も明示されたことを踏まえ、校長は、学校経営ビジョンと組織・運営について学校自らが評価し、改善を図っていくとともに、積極的に情報公開しながら外部からの評価を有意義に活用していかなければならない。また、保護者や地域、関係機関との連携・協力を推進するため、協議と共通理解の場を確保することが必要である。加えて、人事評価において、校長は、評価者として教職員への適切な指導と対話を重ね、各自の意識変革や能力開発を促し、個々の人事評価が学校の組織全体の成長・発展につながるよう取り組むことが大切である。

本分科会では、これからの学校教育と学校経営の在り方について、学校評価と人事評価をツールとした組織マネジメントの改善を通して、学校教育の充実を図る評価・改善を着実に推進していくための具体的方策と校長の役割について究明していきたい。

【研究領域 Ⅱ 教育課程】

第4分科会 知性・創造性

『研究課題』 知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

『趣 旨』

激しく変化する社会においては、これまで経験したことのない問題に対応するため、既成概念にとらわれない豊かな発想や新たな価値を生み出すことのできる資質や能力が求められる。学校では、そうした資質や能力を育成するため、知識や技能の獲得を重視する学力観から、知識の活用を重視した学力観への転換を図ってきた。

今後は、子供たちに自分に対する自信を持たせ、自らの夢や志の実現に向け、たくましく生きる力を身に付けさせるため、新たな課題に果敢に挑戦しながら、いかなる変化にも対応できる柔軟な思考力や判断力、表現力、さらには新たな見方や考え方をもとに新しい価値を創出することのできる資質や能力を育てていくことが重要である。学校においては、子供たちが自らの夢や志を実現するための基礎を育むため、「確かな学力」を確実に身に付けさせるための教育課程を編成・実施してきたが、今後は新たな教育課程の編成が求められている。

校長は、このような認識のもと、子供の実態や自校の特色を踏まえ、育てる子供像を明確にして具体的な目標を設定し、その実現に向けた取組を行うとともに、PDCAサイクルを生かし質的な改善を図って行かなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、「新たな知を拓く」教育課程の編成・実施・評価・改善の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第5分科会 豊かな人間性

『研究課題』 豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

『趣 旨』

子供たちが、自らを律しつつ、自己の確立に努め、他人を思いやる心や感動する心などをもつ豊かな人間性を人として成長させ、自分らしく主体的に生きていくことは、社会全体の願いである。また、東日本大震災以降、学校には、互いの個性を尊重するとともに、絆を大切にしたい社会づくりに貢献できる日本人の育成が期待されている。このような豊かな人間性の育成を図る基盤として、道徳教育や人権教育がある。

道徳教育の観点からは、自尊感情や規範意識の希薄化等の心の育ちにかかわる課題や、自分さえ良ければよいという利己的な考えや態度に陥りがちな子供の現状が指摘されている。その背景には家庭や地域社会における教育力の低下等の状況や、いじめや不登校等の子供たちが安心して学べる学校生活の環境づくりに関わる問題がある。これからの道徳教育は、こうした課題を踏まえ、子供たちが夢や志をもって未来を拓き、人としてよりよく生きていこうとする力や態度が育成できるよう、指導の改善と充実を図っていかなければならない。

また、人権教育の観点からは、子供たちが人権尊重の理念についての理解や実践する態度が十分に身に付いていないことが指摘されている。加えて、教職員にも人権尊重の理念についての理解が不十分であることや、指導方法が十分に身に付いていない等の課題がある。

校長は、こうした課題を解決するため、子供たちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、他人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育む人権教育を教育活動全体を通じて推進していくことが求められている。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、道徳教育や人権教育など心の教育にかかる教育実践について、人間性豊かな日本人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第6分科会 健やかな体

『研究課題』 健やかな体を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

『趣 旨』

生活様式の多様化や社会における技術の高度化、情報化等の進展は、国民生活に多大な恩恵をもたらしている反面、運動不足や精神的なストレスの増大等、子供の心と体の健やかな成長や生活に様々な影響を及ぼし、心身両面にわたり健康上の問題を生み出してきている。

このような状況の中、健康に関する様々な課題に、一人一人が意欲的・主体的によりよく対処できる能力や資質を身に付け、生涯を通して健康で活力ある生活を送ることができるようにすることが求められている。

そのため、子供自らが主体的に自己の健康や体力の増進を図り、生涯を通じて健康で活力ある生活を送ることができるように、全ての子供に、豊かでたくましく生きるための心と体を育む教育課程を編成し、実施・評価・改善を図ることが必要である。さらに、食に関する正しい知識やそれを実践していくことのできる態度を育てることも重要である。また、学校においては、家庭や地域社会との連携を深めながら、子供の生活実態を明らかにし、課題に対し組織的・体系的に取り組む中で、生涯にわたって健康で活力ある生活を営むことのできる能力と実践的な態度を培っていくことが求められる。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、未来をたくましく生き抜くための体づくりと健康づくりを推進するための教育課程の編成・実施・評価・改善の在り方と校長の役割について究明していきたい。

【研究領域 Ⅲ 指導・育成】

第7分科会 研究・研修

『研究課題』 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

『趣 旨』

社会の様々な変化が急速に進む中、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子供の育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教員が、その資質・能力を一層高め、教育力を向上させることにより、学校と教職員との信頼関係を揺るぎないものへと確立する必要がある。

こうした学校教育の使命・責務を果たすためには、教職員一人一人に確かな指導力が求められる。この指導力とは、教科指導・生徒指導・学級経営等の能力に加え、危機管理能力や保護者への対応力等も含めたものである。また、児童や学校の実態や地域の状況に応じて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。これらの能力を教員に身に付けさせていくには、情報の共有と教育実践を通して、個々の指導力を着実に向上させるようにすることが重要である。さらに、教職員一人一人が、意欲と自信をもって教育活動に取り組むための研究・研修体制の充実を図ることが求められている。

加えて、校長は、自らの資質・能力の向上を図り、確かな先見性と洞察力を身に付けるとともに、個々の教職員の特性と力量を見極め、個に応じた課題と具体的な解決への展望をもたせることが大切である。そのため、校長は、教職員の資質や能力、学校経営への参画意識を高める研究・研修を積極的に推進する必要がある。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、教員の資質・指導力と学校の教育力を向上させる研究・研修の推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第8分科会 リーダー育成
『研究課題』 これからの学校を担うリーダーの育成
『趣 旨』

教職員は、子供たちの心身の発達に関わり、その人格形成に大きな影響を与える存在であり、その資質・能力を絶えず向上させていく必要がある。また、組織的に課題解決に取り組む組織運営能力を高めることも重要である。そのため、校長は、教職員が日常的に相互の関わりの中で実践的な指導力を発揮できるようにするとともに、将来の管理職を担う人材となるべき教職員や組織を育成することが求められている。

一方、若手教員の増加や取り組むべき課題が多様化する中、学校経営を計画的に推進するため、現在、学校には、校務運営の中核的な役割を果たすためのリーダーシップや、教育活動全体を見渡せる見識と実践的指導力、管理職と教職員の円滑な調整を行う力などを備えたミドルリーダーの存在が不可欠である。

校長は、教職員一人一人の授業力・指導力の把握はもとより、教育活動を展開・推進する意欲、教職員と協働する能力や資質等、これからの学校を真に担うリーダーとしての力量を見極め、人材を発掘し、組織的・計画的に、その資質能力の一層の伸長に努めなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、これからの学校を担うリーダーの育成の在り方と校長の役割について究明していきたい。

【研究領域 Ⅳ 危機管理】

第9分科会 学校安全
『研究課題』 命を守る安全・防災教育の推進
『趣 旨』

我が国は、阪神淡路大震災や東日本大震災等の未曾有の災害を経験した。その後も各地で、巨大な地震の連動発生や、大型台風、局地的な大雨さらには火山の爆発的な噴火等による自然災害が発生しており、改めて防災体制の見直しが喫緊の課題となっている。一方、交通事故をはじめとして子供が被害者となる犯罪・事件の発生、さらには、新しい感染症や児童虐待、携帯電話やインターネットに関わる犯罪といった新しいリスクの顕在化など、子供たちを取り巻く危機的状況は多様化しつつある。

こうした現状に対し、学校には、安心・安全な教育環境の確保や、防災・減災についての知識、危険予測と危機回避能力等を子供たちに育んでいく教育に取り組むことが求められている。加えて、予測不可能な事態が生じた際には、子供たちが自ら判断し、行動できる力や態度を身に付けさせることも強く求められている。

校長は、学校の教育活動全体を通じた組織的・計画的な指導を基盤に、家庭・地域・関係機関との連携を密に図りながら、子供たちの生命を守るための諸課題に適切に対応していかなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、子供たちの安心・安全を確保するとともに、生命を守るための安全教育・防災教育の推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第10分科会 危機対応
『研究課題』 様々な危機への対応
『趣 旨』

学校が対応すべき危機には、大地震や風水害などの自然災害のみならず、不審者の侵入、様々な感染症、児童虐待への対応等、子供の安全を脅かす危機が多岐に渡り山積している。特に、いじめ、不登校、暴力行為等、生徒指導上の問題は依然として深刻であり、児童虐待の増加や携帯電話・スマートフォン利用の低年齢化等と合わせて、子供たちの豊かな心を育む上での大きな課題となっており、その対応の在り方が問われている。校長は教育活動のあらゆる場、あらゆる時にも危機的状

況が発生する可能性があるという認識を持ち、様々な危機への対応を想定して学校経営に当たらなければならない。

学校の危機管理においては、生命の安全を第一にした日々の教育活動の推進、子供と教職員の信頼関係の構築や学校に対する地域や保護者からの信頼・信用の確立が重要な柱となる。

校長は、危機に当たって組織的な対応を行い、迅速に情報を収集し、適切に判断し対処することが強く求められている。また、様々な危機を想定し、その予防や発生した際の対応のための校内体制を整備し、家庭・地域住民や関係機関とも密接な連携体制を構築していかなければならない。

このような考えに立ち、校長のリーダーシップのもと、様々な危機への対応の在り方と校長の役割について究明していきたい。

【研究領域 V 教育課題】

第 11 分科会 社会形成能力

『研究課題』 社会形成能力を育む教育の推進

『趣 旨』

核家族化、少子化などによる家庭の養育姿勢や地域コミュニティの変化に伴う地域活動への参加機会の減少などにより、子供たちから家庭や地域において、社会性を高めたり人間関係を育み広げたりする機会が奪われてきている。

学校は、これからの社会を生きる子供たちに知性・創造性や豊かな人間性を育むとともに、子供たちが、自らが置かれている状況を受け止め、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、未来社会を積極的に形成しようとする態度を身に付けられるようにしていかなければならない。さらに、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、地域に貢献する学校づくりを進めていくことが重要である。

そのため、学校は、子供たちが考え行動するプロセスを重視し、地域の特色を生かした体験的な活動を積極的に取り入れていく必要がある。社会体験活動を教育課程に位置付け、子供たちが多様な社会の課題に触れ、その解決のために地域で一定の役割を担うことにより、社会の一員としての自覚や自発性を身に付けさせていくことが考えられる。また、キャリア教育等の視点を取り入れた教育活動に取り組ませることにより、幅広い学力をはじめコミュニケーション能力、規範意識といった社会的・職業的自立に必要な能力を高めていくことも考えられる。

このような考えに立ち、校長のリーダーシップのもと、社会形成能力を育む教育の推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第 12 分科会 自立と共生

『研究課題』 自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進

『趣 旨』

近年、障害の種類や程度に応じた特別の場での指導ではなく、通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている子供に対してその教育的ニーズを把握し、適切に教育的支援を行い、家庭・地域・関係機関とで連携しながら自立や社会参加を促進していくことが求められている。

そのため、校内において推進体制を確立するとともに、児童の学習面や行動面のつまずきの状況を把握し、個々の教育的ニーズに応じて、個別の指導計画などにより教育内容・方法を明らかにすることが大切である。また、保護者や関係機関との密接な連携、教育活動の諸条件の整備・充実に努めるとともに、特別支援教育に対する理解と認識を深めるための研修や啓発活動にも一層の工夫と努力が必要である。そのため、校長は、自ら特別支援教育に対する理解を深める必要がある。

一方、近年における経済や産業の急激な発展や人口の増加に伴い、自然破壊、環境汚染、資源やエネルギーの消費問題など、身近な環境から地球規模の環境に至るまで様々な環境問題が生じ、今や、地球環境問題は人類の存続をおびやかすまでに至っている。そうした中、あらゆる生命あるものの共存・共生を目指す環境問題の解決が急務となっており、学校教育や社会教育の場で環境教育・環境学習が適正かつ活発になされなければならない。そのため、発達段階に応じて、体験活動等を通して身近な環境に関心をもたせ、人間と環境の関わりについて考えさせ、現在も進行してい

る問題に気付かせる必要がある。さらに、家庭や地域との連携を図りながら、環境保全やよりよい環境の創造に主体的に取り組む実践的態度や能力を培うことが大切である。

このような考えに立ち、校長のリーダーシップのもと、自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

第13分科会 連携・接続

『研究課題』 家庭・地域等との連携と異校種間の接続の推進

『趣 旨』

地域社会の維持・発展に積極的に参画し、貢献しようとする子供を育成するためには、家庭や地域社会が担う役割は大きい。

しかし、近年、家庭の教育力の低下や少子高齢化などの社会や家庭生活を取り巻く環境の変化から、基本的な生活習慣の欠如、自制心や規範意識の希薄化、コミュニケーション能力の不足など、子供たちの成長に関わる様々な課題が生じ、学校生活にも大きなひずみとなって影響を及ぼしている。

こうした現状を踏まえ、これからの学校には、地域の協力と地域への貢献という双方向の関わりの中で、地域と一体となって子供を育成し、学校教育を創造することが求められている。そのため、学校と地域は互いに情報の共有化を図り、役割を明確にして、地域社会や家庭の教育力向上に向けて取り組んでいかなければならない。

また、地域の保育所・幼稚園及び小学校・中学校の教職員が、保・幼・小・中学校間の「段差」や子供たちの連続的な発達を意識して、相互理解による連携と協働が必要である。

このような考えに立ち、校長のリーダーシップのもと、家庭・地域等との連携と異校種間の接続、さらにはその推進の在り方と校長の役割について究明していきたい。

11 分科会一覧

研究領域		分 科 会		研 究 課 題	会 場
I	学校経営	1	経営ビジョン	明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進	JMSアステールプラザ 4 F 大会議室
		2	組織・運営	学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営	JMSアステールプラザ 7 F 研修室
		3	評価・改善	学校教育の充実を図る評価・改善の推進	
II	教育課程	4	知性・創造性	知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善	広島市文化交流会館 2 F ルミエール
		6	健やかな体	健やかな体を育む教育課程の編成・実施・評価・改善	
		5	豊かな人間性	豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善	広島市文化交流会館 3 F 銀河 1
III	指導・育成	7	研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進	広島市文化交流会館 3 F 銀河 2
		8	リーダー育成	これからの学校を担うリーダーの育成	広島国際会議場 地下 2 F コスモス 1
IV	危機管理	9	学校安全	命を守る安全・防災教育の推進	広島国際会議場 地下 2 F コスモス 2
		10	危機対応	様々な危機への対応	広島国際会議場 地下 2 F ラン
V	教育課題	11	社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	広島国際会議場 地下 1 F 会議運営室 1
		12	自立と共生	自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進	広島国際会議場 地下 1 F 会議運営室 3
		13	連携・接続	家庭・地域等との連携と異校種間の接続の推進	

発 表 主 題	提 案 者	司 会 者
明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進 ～授業のユニバーサルデザインを意識した授業づくりをとおして～	広島・広島市・比治山小 関 和典	広島・広島市・牛田小 登 民夫
時代の潮流を的確に見取り、校長が協働して教育を動かしていく学校経営の深化を探る ～「岡山型一貫教育」の取組から～	岡山・岡山市・城東台小 後藤 緑	岡山・岡山市・江西小 河原 浩美
教職員の参画意識の向上と強みを生かした学校経営の推進 ～S W O T分析の活用を通して～	鳥取・湯梨浜町・東郷小 山田 直樹	鳥取・三朝町・東小 富山 秀敏
保護者や地域から信頼され、「新たな知を拓く」教育を推進する学校評価	広島・江田島市・鹿川小 武川 彰	広島・江田島市・中町小 大松 宏昭
児童の主体的、協動的な学びから知性・創造性を育む ～児童一人一人に確かな力をつけるために～	広島・広島市・観音小 三上 正浩	広島・広島市・湯来南小 西井 章司
学校間の連携で体力向上を推進する ～体力を向上させる体育学習の充実と人間関係づくり～	鳥取・南部町・会見小 伊田 典穂	鳥取・大山町・中山小 末次 和也
ESDで創る未来へつなぐ学び ～自己肯定感を高める学校経営を通して～	広島・福山市・駅家西小 我妻 育子	広島・福山市・瀬戸小 水本 孝義
コミュニティ・スクールを活用し、地域と共に子どもたちの豊かな心を育む	山口・岩国市・愛宕小 世良 泰章	山口・岩国市・中洋小 松村與志弘
教職員の参画意識と授業力の向上をめざす研修の推進 ～中学校区小中学校との連携を図った研修の推進と校長の役割～	広島・広島市・中野東小 坊田裕紀子	広島・広島市・上安小 山本 伸生
教職員が主体的に参画できる研究・研修体制の推進と校長の役割 ～中学校区の連携を生かした教育への取組を通して～	岡山・真庭市・水田小 藤森 貴広	岡山・真庭市・中津井小 高田 弘美
確かな展望をもち行動できるミドルリーダーの育成 ～人が育つ組織マネジメントのあり方～	広島・東広島市・高屋東小 村田 真司	広島・東広島市・御菌宇小 河下 正紀
一人一人の良さが発揮されるリーダー共同体 ～「ともにのびるチーム柿木」をめざして～	島根・吉賀町・柿木小 三上 純子	島根・吉賀町・朝倉小 中島 恵治
組織で取り組む防災教育の推進 ～校長のリーダーシップを高める危機管理研修を通して～	広島・尾道市・木ノ庄東小 木本三津子	広島・尾道市・吉和小 津田 秀司
防災教育の推進にむけた関係機関との連携 ～奥出雲町の災害特性を考慮して～	島根・奥出雲町・馬木小 川田 勝巳	島根・奥出雲町・八川小 岸本 康宏
児童の健全育成と食に関する危機管理 ～食物アレルギー対応と校長会の取組～	広島・福山市・高島小 加藤 靖則	広島・福山市・有磨小 金田 高満
様々な危機に適切に対応する学校体制の構築 ～家庭・地域・関係機関等との連携を通して～	山口・宇部市・小羽山小 網本 徳文	山口・宇部市・藤山小 大田 一夫
地域への愛着と誇り、感謝の心の育成 ～校舎移転をとらえた地域協働の取組を通して～	広島・三原市・南小 池田 彰夫	広島・三原市・中之町小 大畠 孝則
ふるさとを愛し、貢献する子どもの育成 ～体験的な活動と連携で育てる社会形成能力～	岡山・矢掛町・矢掛小 弓取 錦也	岡山・矢掛町・川面小 渡辺 英信
通常の学級における特別支援教育の充実を図るための校長のリーダーシップ ～人的資源を活用した組織的支援の整備・充実に向けて～	山口・下関市・養治小 長谷川 敬	山口・下関市・王江小 大野 博孝
郷土を想い夢と志に向けてともに学び続ける児童の育成 ～ふるさと教育、協働の授業づくりを通して～	広島・安芸高田市・向原小 迫岡 純子	広島・安芸高田市・甲立小 山平 弥生

12 大会に参加される方への連絡事項

(1) 参加申込について

- ① 参加者は6月24日（金）までに、参加申込票に参加費を添えて各県小学校長会事務局に申し込んでください。
- ② 参加費の返金はいたしません。後日、大会要項及び大会報告書をお届けします。
- ③ 参加費領収書は、大会当日、受付でお渡しする大会要項に入れておきます。
- ④ 参加についての変更は、8月26日（金）までに各県小学校長会事務局へご連絡ください。

(2) 宿泊申込について（この旅行はJTB中国四国が旅行企画実施する募集型企画旅行です）

- ① 宿泊を希望される方は、参加申込票にご記入ください。
- ② 宿泊確認書及び請求書・宿泊パンフレットなどにつきましては、
「㈱JTB中国四国 広島支店」から、10月14日（金）までに参加者個人に送付します。
- ③ 宿泊費は10月31日（月）までに、参加者個人で指定の口座にお振込みください。
- ④ お振込みがない時は、取消とします。
- ⑤ 宿泊についての変更は、必ずFAXで「㈱JTB中国四国 広島支店」へお願いします。
- ⑥ 宿泊施設 下の「宿泊のご案内」より、「宿泊記号」をお選びください。
- ⑦ 宿泊に関するお問い合わせは、すべて「㈱JTB中国四国 広島支店」にお願いいたします。

宿泊のご案内

宿泊料金（1人あたりの料金 1泊朝食付き・税金・サービス料込）

記号	ホテル名	部屋タイプ	ご旅行代金	アクセス
A	ホテルサンルート広島	シングル	10,000 円	広島駅南口→広島電鉄、広島港行き約20分 中電前駅下車→徒歩約3分
B	法華クラブ広島	シングル	9,000 円	広島駅南→広島電鉄広島港、広電前行き約20分 袋町駅下車→徒歩約3分
C	コンフォートイン広島 平和大通	シングル	7,300 円	広島駅南口→広島電鉄、広島港行き約20分 中電前駅下車→徒歩約1分
D	広島市文化交流会館	シングル	8,000 円	広島駅南口→広島バス吉島行き約25分 加古町下車→徒歩約0分
E	パークサイドホテル 広島平和公園前	シングル	8,700 円	広島駅南口→広島電鉄宮島口行き約15分紙屋町西駅下車→徒歩約5分。 広島バスセンター下車→徒歩約5分
F	ホテルメルパルク広島	シングル	10,000 円	広島駅南口→広島電鉄、宮島口又は江波行き約15分 紙屋町西駅下車→徒歩1分 広島バスセンター下車→徒歩1分
G	ホテルヴィアイン広島	シングル	10,000 円	広島駅南口→徒歩約1分
H	アークホテル広島駅南	シングル	8,900 円	広島駅南口→徒歩約5分
I	広島駅前グリーンホテル	シングル	8,700 円	広島駅南口→徒歩約3分

- 宿泊取扱期間：平成28年11月16日（水）、11月17日（木）の2日間
- ご旅行代金（宿泊料金）は、1泊朝食付（サービス料込・税金込） お一人様あたりの料金です。
- 最少催行人員：シングル1名
- 添乗員：同行しません。（チェックインのお手続きはお客様ご自身で行っていただきます）

振込先

〒730-0031 広島県広島市中区紙屋町 2-2-2 紙屋町ビル2階

株式会社JTB中国四国 広島支店 TEL(082)236-3733 FAX(082)542-2738

口座番号 三菱東京UFJ銀行 千代田支店 普通 5337056 JTB中国四国

申し込み内容の変更・取消

変更・取消は、メールまたはFAXにてご連絡ください。

取消の場合は、取消料として下記料金を申し受けます。

	11月16日宿泊分	11月17日宿泊分	取消料
ご利用日6～2日前まで	11月10日～14日まで	11月11日～15日まで	宿泊代金の20%
ご利用日前日まで	11月15日まで	11月16日まで	宿泊代金の40%
ご利用日当日	11月16日	11月17日	宿泊代金の50%
旅行開始後及び無連絡不泊	11月16日	11月17日	宿泊代金の100%

※詳細の旅行条件に関しては、申し込み後に送付する旅行条件書（全文）をご参照ください。

13 各県小学校長会事務局へのお願い

- (1) 参加者名簿一覧（分科会別）のデータは、7月15日（金）までに送信ください。
大会参加申込票は、7月22日（金）に開催されます第1回中国地区理事会にご持参ください。
（事前に送付も可）
- (2) 参加費は、7月19日（火）までに、下記にお振り込みください。

<郵便振込> 口座名 広島県連合小学校長会事務局 口座番号 01350-0-24992

- (3) 参加者の変更は、「広島県小学校長会事務局」にお願いします。

TEL (082) 263-6381 FAX (082) 262-3822

宿泊者の変更は、(株)JTB中国四国 広島支店にお願いします。

TEL (082) 236-3733 FAX (082) 542-2738

Email ec_hij@cs.jtb.jp 担当：友杉・繁田（ともすぎ・しげた）

14 中国地区理事・提案者・助言者・司会者・記録者・分科会運営委員へのお願い

- (1) 中国地区小学校長会第2回理事会
11月17日（木）午前9時～ JMSアステールプラザ7F研修室
提案者・助言者・司会者・記録者・分科会運営者の打ち合わせ会
11月17日（木）午前9時～ JMSアステールプラザ4F大会議室
で、それぞれに行います。詳しくは、後日ご本人あてにご案内申しあげます。
- (2) 広島大会では、前日レセプションは行いません。

提案原稿提出【7月29日（金）まで】は、

広島大会研究部 広島市立千田小学校 庄野 英憲（しょうの ひでのり）

TEL (082) 241-8623 FAX (082) 248-2923

Email shiyouno76@e.city.hiroshima.jp

広島大会に関する連絡・問い合わせ先

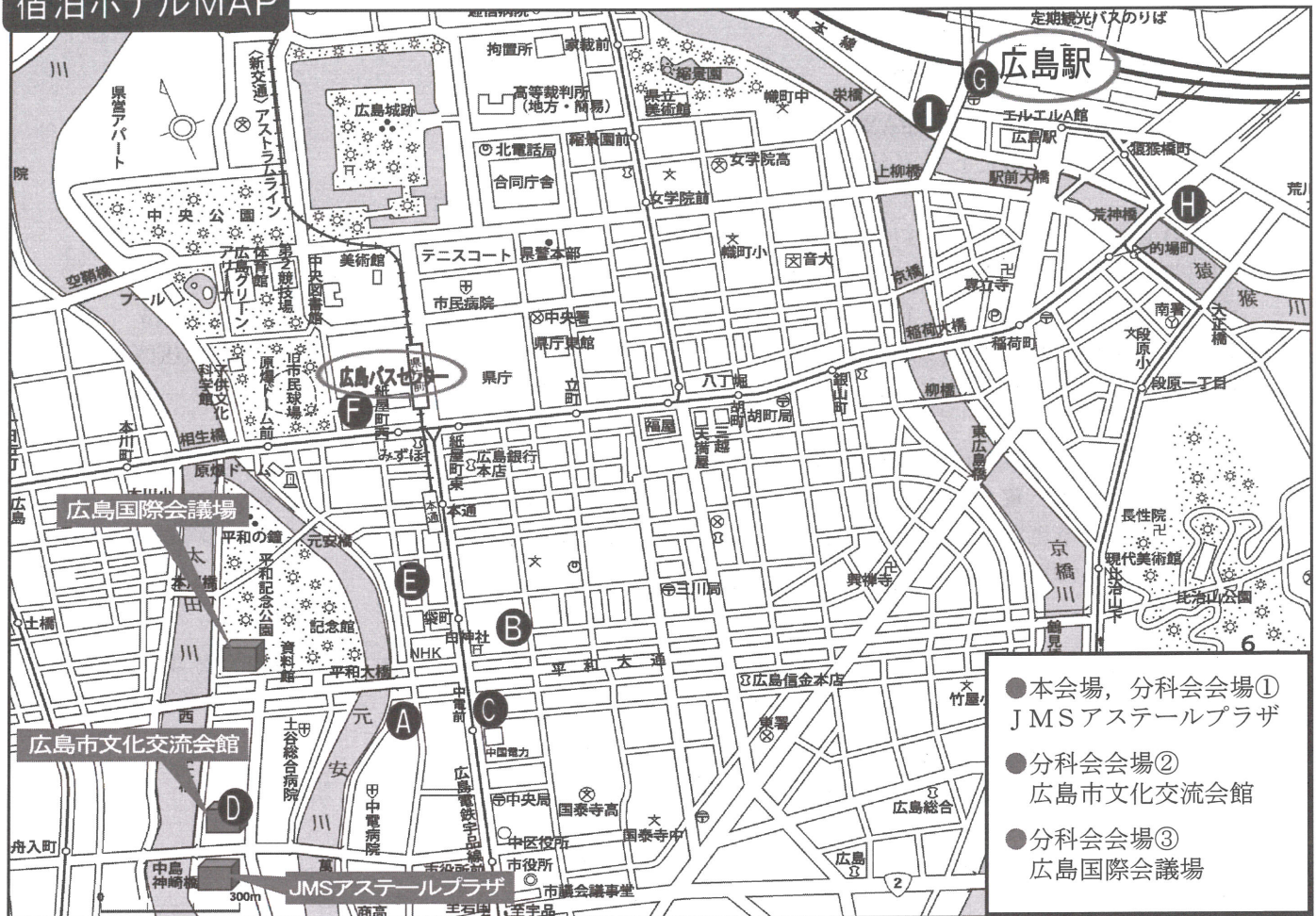
〒732-0052 広島市東区光町一丁目11-5 地産ビル1003号

広島県連合小学校長会事務局

TEL (082) 263-6381 FAX (082) 262-3822

Email kenrensho@do8.enjoy.ne.jp

宿泊ホテルMAP



宿泊ホテル <1泊朝食付 1名1室利用>

記号	ホテル名	部屋タイプ	ご旅行代金	アクセス
A	ホテルサンルート広島	シングル	10,000 円	広島駅南口出口→広島電鉄、広島港行き約20分 中電前駅下車→徒歩約2分
B	法華クラブ広島	シングル	9,000 円	広島駅南口出口→広島電鉄広島港、広電前行き約20分 袋町駅下車→徒歩約3分
C	コンフォートイン広島 平和大通	シングル	7,300 円	広島駅南口出口→広島電鉄、広島港行き約20分 中電前駅下車→徒歩約1分
D	広島市文化交流会館	シングル	8,000 円	広島駅南口出口→広島バス吉島行き約25分 加古町下車→徒歩約0分
E	パークサイドホテル 広島平和公園前	シングル	8,700 円	広島駅南口出口→広島電鉄宮島口行き約15分紙屋町西 駅下車→徒歩約5分。 広島バスセンター下車→徒歩約 5分
F	ホテルメルパルク広島	シングル	10,000 円	広島駅南口出口→広島電鉄、宮島口又は江波行き約15 分 紙屋町西駅下車→徒歩1分 広島バスセンター下車→徒 歩1分
G	ホテルヴィアイン広島	シングル	10,000 円	広島駅南口出口→徒歩約1分
H	アークホテル広島駅南	シングル	8,900 円	広島駅南口出口→徒歩約5分
I	広島駅前グリーンホテル	シングル	8,700 円	広島駅南口出口→徒歩約3分

<ご参考>

■本会場 JMSアステールプラザ JR 広島駅からの交通手段

市内電車利用の場合	広島港行（紙屋町経由）→市役所前下車（600m） 江波行→舟入町下車（400m）
バス利用の場合	広島バス 24番路線 吉島営業所行または吉島病院行→加古町下車（200m）
タクシー利用の場合	約15分

平成28年度

中国地区小学校長教育研究大会広島大会会場の位置図

1 利用施設

- (1) JMSアステールプラザ（開会式，全体会，中国地区理事会，提案者・助言者・司会者・運営委員等打合せ，分科会2会場，記念講演，閉会式）

- (2) 広島市文化交流会館（分科会3会場）

- (3) 広島国際会議場（分科会5会場）

2 会場位置図

